

## ■ 子どもの育成は地域の未来を担う

### (矢倉学区未来のまち協議会、元気な子ども育成推進部会/各種団体協力)

#### 1 【活動の趣旨】

矢倉学区では「子供が地域の未来を担う」と考え、まち協の各部会や団体等が協力して子どもの育成事業に力を入れています。その中で令和5年度に実施の取組の一部をご紹介します。(子ども関連事業は年12回開催)

#### 2 【特徴的な活動内容】

##### ○わんぱくプラザ矢倉っ子「草津川探検」

8月5日実施、参加児童22名、保護者14名

滋賀県琵琶湖環境科学センターから主任研究員に指導  
お願いし近隣の草津川河川敷から草津川内に入り河川内の「生き物」を自分たちで捕獲し、その名前や生態、外来生物について親子で学んだ。 \*捕獲した生物は外来種以外リリース



【草津川探検】

##### ○「子ども防災キャンプ」

7月15日・16日、参加児童14名

今年から滋賀県希望が丘文化公園、野外活動センターにてテント設営し、希望が丘アウトドアスクールのプログラムを使い、初日「防災クイズ」「避難所について考えてみよう」「火起こし体験」「炊飯体験」「直火でバーベQ」「ローソクでランタン作り」、2日目は「直火でホットドッグ作り」「出来なくなる事クイズ」「子どもに出来る救急法」等に挑戦し、2日間元気に活動した。



【防災キャンプ】

##### ○BohNoの「手作り給食」体験

10月14日実施、参加児童6名、保護者6名

立命館大学学生グループ BohNo と協力して滋賀の伝統野菜「日野菜」を使った焼き飯作り体験、伝統野菜の大切さや活用法、守り続ける意味等を学んで作った。



【手作り給食】

#### 3 【実施に当たっての工夫】

わんぱくプラザ事業やにこにこレストラン事業では「親子で参加」し、地域事業をでは大切な親子の「絆」や「思い出づくり」に注力しました。「子ども防災キャンプ」では、素直な児童が災害に備える意識を養い、万が一の事態に大人に頼らず生き延びる「知識と技術を得てもらいたい」と願い企画しました。

#### 4 【事業の成果】

今年の事業は昨年と比べ児童の参加が増え、特に親子での参加促進は進んだと判断しました。防災キャンプは令和5年度から「希望が丘」に会場を変更し、非日常を児童に体験させる事で、子どものグルーピングで自主性を発掘できたと感じました。

#### 5 【事業実施上の課題・今後の連携・協働活動実施に向けて】

何れの事業もサポーターの存在は大きく、各種団体から多くの応援を頂いている。また昨年からはコミュニティ事業団主催の立命館大学生とのマッチング交流を経て学生グループも参画し事業を開催できている。今後この繋がりには更に深め、一方学区内でのボランティアは、すそ野を広げる為に事業参加への敷居を下げる事を模索する。